平成３０年度第２回総合教育会議議事録

平成３０年１２月２５日

平成３０年度　第２回精華町総合教育会議　議事録

１　開　　会　　平成３０年１２月２５日（火）　午後３時３０分

　　閉　　会　　平成３０年１２月２５日（火）　午後５時００分

２　出席構成者　　木村精華町長　川村教育長　松本教育長職務代理

　　新司委員　岡島委員　松下委員

３　出席事務局職員

　　岩橋総務部長　浦本総務部次長　大原企画調整課長

　　上原企画調整課企画係担当係長　岩前健康福祉環境部長

　　岩﨑教育部長　片山総括指導主事　竹島学校教育課長

　　石崎生涯学習課長

４　傍 聴 者　　なし

５　会議の概要

（１）開会

総務部長から第２回総合教育会議の開会を宣言。

－町長あいさつ－

○木村町長

年末、慌ただしい折にも関わりませず、第２回精華町総合教育会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

１２月２１日をもちまして精華町議会の１２月会議も無事閉会となりましたが、全ての議案に可決、同意、認定をいただきました。今年を振り返りましても、予算を全会派の賛成、そして、決算も全会派の認定をいただきました。議会と行政とが、お互いに知恵を出し合い、意見を述べ合い、堂々と議論をする中で、最終的に議案や決算について、可決・認定をいただき、非常に恵まれた中で、町長という大役を務めさせていただいていることを、改めて感謝を申し上げるところでございます。

さて、この間、教育委員会からは非常に嬉しい報告を数多くいただいておりま

して、ここで少しご紹介させていただきます。夏には各種大会で、本町の中学校の生徒が素晴らしい結果を出しており、運動競技では多くの生徒が京都府大会や近畿大会に出場し、中には全国大会に出場して素晴らしい成績を残した生徒もおられました。また、吹奏楽では、本町の３中学校全てが京都府吹奏楽コンクールで金賞を受賞し、中でも精華西中学校につきましては、関西の吹奏楽コンクールへの出場を果たし、そこでも金賞を受賞しております。８月には、皆さんの訪問を受け、生き生きとした表情と話を聞かせていただき、私も元気をいただいたところです。

過日、１２月１６日には、京都府域の学研都市２市１町が関係する、けいはんな文化祭がけいはんなプラザで開催されました。本町の小・中・高校生が各種の発表をしましたが、そのレベルの高さに感激したところです。

また、１２月１７日には、本町の小学校においても、環境や音楽関係のコンテストで素晴らしい成績を上げて表彰を受けたとのことで訪問を受け、私も一緒に喜ばせていただきました。これも現場の先生方や校長先生、教頭先生、また、教育長を初めとする教育委員会の皆様のご尽力によるものと、感謝を申し上げます。

一方で、この間の懸案事項となっておりました小・中学校への空調設備の整備につきましては、昨年度の中学校への整備に引き続き、今年度は小学校５校への設置に取り組んでおり、完成間近とのことであり、安心して教育に専念いただける環境が整ったと、非常に嬉しく思っております。空調設備の整備につきましては、特に今年の夏の暑さにより日本全国で課題となっており、比較的規模の大きな都市でも設置率が低いところがあるとの報道がありました。本町としましては、早くから課題としての認識を持ち、国や関係機関の支援をいただく中で、早期に完了できたことは非常に良かったと考えております。

さて、川村教育長におかれましては、今年の１０月１日に教育長に就任いただきましたが、就任後、まずは教育の現場に足を運んでいただき、校長先生を初めとする教育現場との意見交換を行っていただいたり、各種行事にも積極的に参加していただいたりと意欲的に取り組んでいただいておりまして、大変心強く感じているところでございます。また、教育委員の皆様方におかれましても、この間、町内全小・中学校を訪問していただき、授業の様子や現場の声に耳を傾けていただいたとお聞きいたしており、その精力的な取り組みに感謝申し上げますとともに、そこで感じられたことや、現場の声などにつきましてお聞かせいただければと思います。

本日は、教育委員会の皆様と交流する中で、十分な意思疎通を図り、地域教育の課題やあるべき姿を共有して、共により良い方向に進めてまいりたいと考えております。本日の会議が有意義なものとなりますよう、よろしくお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

－教育長あいさつ－

○川村教育長

小中学校も冬休みに入りまして、今年もあとわずかとなりました。思い返しますと、太田前教育長のご退任を受けまして、１０月から、木村町長より教育長の辞令を賜りまして、３カ月弱、勤務させていただきましたが、本当にあっという間のことでございました。

この短い期間の中ではありますけれども、まずは町内の小・中学校を訪問して校長先生や教頭先生と意見交換をさせていただきました。また、教育委員の皆様とも一緒に学校訪問させていただき、現場の様子を見せていただきました。その後も、できる限り学校には足を運ぶことを心がけ、各種行事にも参加させていただく中で、次第に本町の小・中学校の教育の様子、そこで学ぶ子どもたちの姿というものを少しずつではありますが、感じ取ってきたと思っております。

また、先ほど町長からご紹介いただきましたように、子どもたちが学習やスポーツ、文化活動において目覚ましい活躍をしており、本当に嬉しく思うとともに、精華町の子どもたちの豊かな才能に驚いているところです。１１月１８日に開催されました子ども祭りでは、吹奏楽の演奏を実際に聞く機会を得まして、本当に素晴らしい演奏で感動を覚えたところです。

さて、現在、教育行政におきましては、長年の課題でありました空調設備の整備について、昨年度には中学校への整備が完了し、小学校の整備につきましても、今年度、順調に工事が進み、間もなく完了する予定です。これまで木村町長を先頭にご尽力いただきました成果でございまして、平成３２年度からの新学習指導要領の実施に向けまして、授業時間の確保の点からも、２学期を前倒しして開始できる教育環境が整ったということで、本町の教育において非常に重要なことであると考えております。改めまして、感謝を申し上げます。

残すところ、最大の課題となりました中学校給食の導入につきましても、木村町長を初めとします関係者の皆様のご協力を得まして、道筋が見え始めたところでございます。教育委員会におきましても、一丸となって取り組んでまいりたいと考え

ておりますので、引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本日は新しい年度に向けての教育にかかわる重点施策について、率直な意見交換をさせていただきたいと思っています。町長の教育委員会に対する忌憚のないご意見、ご指摘を賜れれば幸いだと思っております。

本日の会議が有意義なものとなりますよう、お祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

（２）出席者紹介

司会の総務部長より構成員及び事務局の紹介

（３）教育施策について

今回は、調整事項がなく、報告と意見交換のみのため、設置要綱第４条に基づき、司会は引き続き総務部長が行う。

－報　告－

学力の状況について

○片山総括指導主事

資料として、『小学校「京都府学力診断テスト」の結果について』を用いまして、本町の児童の学力状況をご報告いたします。

例年、全国学力・学習状況調査が小学校６年生、中学校３年生を対象に４月に行われております。実施教科につきましては、小学校と中学校ともに国語と算数・数学に加え、今年度は理科についても実施されております。また、京都府学力診断テストも小学校４年生、中学校１年生を対象として、４月に実施されました。実施時期が４月ですので、中学校１年生につきましては、小学校卒業段階での国語と算数の内容となります。なお、中学校２年生につきましても、１０月に実施をされております。

全国学力状況調査の結果や分析につきましては、町広報誌の「華創」におきまして、１２月号より３回シリーズで掲載を予定しております。また、町のホームページにおきましては、もう少し詳しく掲載させていただいております。本町の正答率につきましては、小学校６年生、中学校３年生ともに、全国や京都府の平均を上回る結果となっております。

なお、京都府学力診断テストの結果につきましては、教員で構成される精華町

学力向上総合推進委員会におきまして分析を行い、このように冊子にまとめております。１０月に実施された中学校２年生の結果につきましても、２週間前に返ってまいりましたので、現在、分析を進めているところでございます。

この冊子では、平成３０年度「京都府学力診断テスト」の結果の概要を記載するとともに、本町の全体的傾向として正答率の低かった問題やその領域について抽出して分析を行い、指導改善のポイント等を示しております。そして、テスト結果から見えてくるもの、分かる授業に向けた指導法の工夫などについて、まとめとして記載するとともに、質の高い・分かる授業を目指してという形で、ポイントをまとめ、記載しております。

今後につきましても京都府が開催する研修などに参加し、分析方法についての研鑽を積んで、より良い授業を目指した取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上、報告とさせていただきます。

○松下教育委員

まず、これだけの資料を作成するには、相当な時間が必要だったと思いますし、精華町学力向上推進委員会のメンバーの先生方には大変ご苦労いただいたこととお察ししますが、この分析と資料作成は非常に良い研修の機会でもあったと思います。本町の今の子どもたちの状況を確認し、それを踏まえて今後どのように指導していくかということが明確になったと思います。一方、現在の働き方改革等を踏まえますと、今後どのように取り組んでいくかということにつきましても、研究が必要であると思います。

とりわけ、テストの結果を踏まえたまとめの部分である「分析から見えてきたこと～すべての教職員の皆さんへ～」にありますが、課題解決への大きなポイントを４点記載した上で、その真ん中に、家庭、他校種、関係機関のそれぞれの連携と地域人材の活用が据えてあります。これは、私自身もそのように考えておりますが、学力向上のためにはこの部分が重要と思われますので、これを踏まえて、より一層取り組んでいただきたいと思います。

加えて、「せいか授業スタンダードの確立に向けて」とあります。町内の８小・中学校がバラバラに取り組んでいては、学力のまとまりは出てきませんので、町内の８小・中学校が同じ方向を向いて取り組む、特に今年はこの点についてどの学校どの学年でも特に重点的に取り組むということを実践していただければ良

いのではないかと思いました。

相当な時間とご苦労をかけて、素晴らしい内容のまとめをしていただいておりますので、是非とも今後に生かしていただければと思います。

○川村教育長

全国学力・学習状況調査や京都府の学力診断テストについては、都道府県別の順位や市町村別の順位というものが非常にクローズアップされる傾向にあります。そのような順位については、確かに全体の平均値であることから、その地域の学力を表したものではありますが、一方で教育というのは、常に一人ひとりの子どもたちが、どれだけの学力を身に付けられたかということが併せて論じられるべきであり、単純に平均値だけを見て、高かったからといって満足していてはいけないと考えております。

診断テストの結果につきましては、理想を言えば、一人ひとりのレベルまでこの結果を分析し、一人ひとりの学びに生かしていくところまで活用できれば素晴らしいと思いますが、それには限界があります。現在、本町におきましては、一定の学力層ごとに分けて、各層への対策を行うことに取り組んでいるところです。この学力層ごとの取り組みをいかに効果あるものとしていくかが大切であると考えております。以上のような観点に立ちまして、平均だけに踊らされず、現場をしっかり見た指導というものが重要であり、各学校での気づきというものが求められてくるのではないかと思います。

○木村町長

私の立場としては、現場の先生方が日々苦労されていることは承知しているつもりですが、それでも十分に理解できていないのではないかと思っております。その中で申し上げられるのは、学校の現場はやはり、知育、徳育、体育のバランスが大切ではないかと思います。先ほど教育長もおっしゃられたように、精華町の平均値が全国や京都府と比べて高いということは良いことではありますが、それだけではなく、体育や文化などの面でもバランス良く取り組み、成長していくことが大切であると考えております。

その意味では、本町の子どもたちは体育や文化の活動でも素晴らしい結果を出しておりますし、これは精華町の教育の誇りであると考えております。子ども祭りのときにも、けいはんなホールのバックに素晴らしい絵がありました。精華南

中学校の生徒が描いてくれたとのことであり、その絵を見ても文化面でのレベルの高さを感じることができました。本町では、現場の先生方のご努力により、非常にバランスのとれた教育をしていただいていると考えておりまして、お礼を申し上げたいと思います。

－意見交換－

○松本教育長職務代理者

まず、学校訪問につきまして、私からは、校長先生の学校経営について報告をしたいと思います。現在、精華町に限らず、全国的に２０歳代、３０歳代前半の若手教員が多い状況があると思います。本町の小中学校は、どの校長先生も若手教員の育成に力を入れていると感じました。若手教員育成の取組みは、例えば、学校全体の研修とは別に若手教員のグループをつくり、ベテラン教員との意見交換や指導を仰ぐという形で、時には教務主任や教頭先生、校長先生が指導するという取組みが多かったように思います。別の方法として、ベテラン教員と若手教員が１対１でペアを組み、相互に授業を参観して、見て学んだり、指導や助言を受けたりして指導力量を高める取組みもありました。指導内容についても各学校で少しずつ異なり、授業の指導力向上、成績の出し方、通知表の所見の書き方、学級経営、生徒指導、保護者対応等、多岐に渡っていました。

次に、生徒指導についてですが、ほとんどの学校で組織的に取り組んでいました。ある小学校では、学級担任が中心となって指導する傾向があったようですが、校長先生が組織的な指導に改善したところ、全校が生徒指導上、比較的安定したという報告がありました。この改善では、若手教員が生徒指導を深く学ぶ機会になったと考えられますので、学校経営として的を射た改善であったと考えます。

以前、私が現役の頃は、教員の年齢がバランスよく構成されていたこともあって、若手教員が自分から近くの先輩に聞いたり、先輩の教員が若手教員に指導・助言をしたりする中で教員として育ててもらったのですが、今は校長先生が若手教員育成の仕組みをつくって、取り組んでいる状況を実感しました。

次に、次年度予算の関連でお話をさせていただきますが、まず、昨年のこの場でもお話をさせていただいた部活動指導員の配置について、お礼を申し上げるとともに、実施状況についても報告させていただきたいと思います。

本年度、部活動指導員を配置する予算を措置していただき、心から感謝しています。今年度、町内３中学校に配置された部活動指導員の状況をまとめると、次

の３点となります。状況の１点目ですが、部活動指導員につきましては、町での予算措置とともに、京都府予算においても措置していただいており、町内３中学校ともに、まずは京都府予算分を活用し、各校に配分された５６時間をほぼ使いきり、町予算分の活用に推移しているところだと聞いています。部活動指導員の活用については、働き方改革に貢献するものであり、町内の３中学校の体育系部活動の顧問５４人の超過勤務は、昨年で１人平均１１５．７時間でしたが、この超過勤務の減少が望めるものと考えられます。また、例えばバスケットボール部の指導力のある教員が異動でいなくなった場合に、専門的な技術と指導のノウハウを持った部活動指導員を配置することができれば、部活動の水準の低下を防ぐことができ、当該部活に所属する生徒にとっても活動の継続性やより高い水準を目指すことができるなど、良い効果が望めるものと考えられます。

状況の２点目ですが、部活動指導員の人選を各中学校の意向を尊重して行っていることについてです。教育は人なりといいますが、学校がこの人ならと望む人物に部活動指導員をしていただくことが重要です。部活動は競技力を向上させ、勝つことを目指しますが、中学校の部活動は勝つことが全てではなく、人間として成長することが最も重要です。学校が望んだ人であれば、このことを中心に据えて指導していただけると考えます。現在、各中学校がこの制度を高く評価しており、問題点や指導に関する課題が報告されていないことから、当該制度の導入が生徒や教職員に受け入れられていると考えられ、さらには保護者の安心にもつながっていくものと推察されます。

状況の３点目ですが、部活動指導員には、試合の引率等ができる制度もありますが、本町では顧問の教員とともに指導を進めています。当該制度はまだ導入したばかりであり、全てを任せるのではなく、生徒の実態を見てもらい、技術指導の方法や重点を置くべき指導を見出しながら、顧問の教員と一緒になって取り組むことが良いと考えます。そうすることによって、部活動指導員が生徒理解を深め、生徒との絆を築きながら指導をしていくことができると思います。

今後においては、部活動の運営や指導について、顧問の教員と部活動指導員とが連携しながら取り組むことが大切であり、顧問の教員は必要に応じて管理職に報告、連絡、相談をしながら、当該制度の活用を推進していくべきと考えます。

以上、現在の状況とメリットについて述べましたが、最後に、来年度の予算について、お願いをしたいと思います。今年度から始まった部活動指導員の配置は、長年の部活動の課題の重要な部分を解消していくとともに、地域の人材を活用す

る重要な取り組みであると考えます。現在は、優先順位により、体育系部活動への配置となっていますが、今後は文化系の部活動も含めて、配置する部活動指導員の人数を増やせるように、予算の増額をお願いしたいと思います。予算の状況が厳しいことは十分承知していますが、よろしくお願いいたします。

○新司教育委員

今年の学校訪問では、校長先生、教頭先生から各学校の特色ある教育についてお伺いしました。各校とも今年度の学校教育の重点目標を掲げておられますが、先ほどもありましたとおり、若手教員の育成に力を注いでおられる学校が多くありました。学力向上に向けた質の高い授業改善をするためには、やはり教員の指導力が大変重要であり、校長先生や教頭先生、経験豊富なベテランの先生が若手教員を育成し、それが子どもたちの学力につながるということで、どの学校も大変力を入れておられました。

学校教育の重点については、各学校の実態に合わせて、子どもたちの状況を見ながら、各学校が重点目標を立てておられました。例えば、今年は心豊かな、人間性豊かな子どもたちを育成することに力を入れるとか、これまで生徒指導に関しては担当の先生が主にしてきたが、全校体制で子どもたちを見守り、指導を行っていくなど、各学校が目標を立て、それに向かって取り組んでおられました。また、不登校の改善に力を入れておられるところもあり、校長先生が、３年間不登校ゼロですと自信を持ってお話されている学校もありました。このような成果を上げるということは、大変ご苦労もあったかと思いますが、不登校の傾向が見られた際には、早期に保護者に理解を求め、家庭と一緒になって取り組んでいるということを力強くお話されていました。また、学校が地域に対して貢献し、地域の人たちも学校に対して地域の教育力を提供されるという形で、地域連携を特色として成果を出されている学校もありました。

各学校に創意工夫があり、先生たちの努力はもちろん、また、地域からの支援を受けて、成果が着実に上がっているという学校が大変多くありました。逆に子どもたちがボランティア活動などの地域貢献をすることにより、子どもたちの体験が豊かになって、学習内容も豊かになり、視野が広くなる。それが学力向上につながり、将来の精華町を担う子どもたちの「人間」を育てているということで、それぞれの小学校、中学校での先生たちのご努力を感じることができました。

次に、来年度の予算に関連して申し上げます。町長も感動されておられるとの

ことでしたが、音楽の活動に関連することでお願いしたいと思います。多くの学校が、近畿大会や関西大会などで素晴らしい成果を上げています。また、吹奏楽やアンサンブルなどのクラブや部活の活動以外でも、精北小学校の大正琴の活動もあります。子ども祭りにおいて、精北小学校の６年生全員による発表があり、私も聴かせていただきましたが、素晴らしいハーモニーで感動しました。精北小学校では、地域の方に指導員として教えに来ていただいて、４年生の後半から６年生まで大正琴に取り組んでいます。ただ一方で、大正琴が老朽化してきており、修理にもお金がかかることから、今の大正琴が使えなくなると活動の継続も難しいとのことであります。発表した６年生に話を聞くと、最初は難しかったけど、４年生から６年生まで練習して上手に演奏できるようになったと楽しそうに話をしてくれました。今回は音楽活動の話をしていますが、学校のクラブ活動や部活動は人間形成をする場であると思います。仲間と一緒に演奏して、チームワークをとって、音楽を通して人に聞いてもらう喜びを子どもが感じることは素晴らしい経験だと思います。子どもたちは、演奏することやそれを多くの人に聴いてもらうことに意欲を持っていますし、感動も与えることができます。私は、音楽によって心を伝えているのではないかなと思います。単に上手になって、成績を上げるということではなく、人間形成の部分も大きいと思います。

子ども祭りの発表の際のことですが、大型の楽器については、廣学館高校からお借りして演奏していたと伺いました。楽器、特に大型楽器は非常に高額で、新規購入や老朽化による更新も難しい状況とのことです。しかし、今、子どもたちは喜んで自ら練習し、成績も上げ、人間的にも成長していると思いますし、非常に素晴らしい取り組みだと思いますので、是非とも音楽活動に関する予算の増額をお願いいたします。

○岡島教育委員

学校訪問に行かせていただきまして、私は保護者の立場から見させていただきました。全ての学校で、子どもたちが意欲的に取り組めるよう、子たちが意見を出しやすいように、先生方が授業を工夫していただいていると思いました。そのためには、教材研究などの入念な準備が必要ですし、子どもたちのためにとても力を注いでいただいていると感じ、本当に親としてありがたいなと思いました。

本当に楽しい授業で、子どもたちからどんどん意見が出て、先生もその意見を上手に拾って、さらに子どもたちから意見が出るというような、大人が見ていて

も楽しいと思うような授業でした。学力をつけるときには、楽しんで自分から意欲的にというのは大切だと思いますので、このような素敵な授業をしていただけたらとても素晴らしいと思いました。

来年度予算に関してお話させていただきますが、精華町では、学校教育に関わる人員の配置については、手厚い体制をとっていただいており、保護者として大変ありがたいと感じています。その一方で、今、支援員や介助員を必要とする子どもたちが増えています。私も仕事柄、幼児に接していますが、療育などに通う子どもだけではなく、何らかの支援が必要な子が本当に増えています。担任の先生１人でクラス全体を見つつ、その子にも関わるというのは本当に大変なことで、そういうときに、介助員、支援員の方が１人、教室におられるだけで、その時々にその子どもに対して適切な指導ができると思います。指導の効果はすぐに出ませんが、その都度指導していくということが大事で、自分の思いを伝えられず困っていても何も言えない子もいれば、周りのスピードについていけない子、自分の気持ちのコントロールが難しい子など、本当に様々な子どもたちが今の各教室にいるように思います。このような本当に支援を必要としている子どもたちのために、支援員、介助員という人員配置をしていただけると、とてもありがたいです。その子が落ちつくことでクラス全体も落ちついたり、授業がスムーズに進んだりしますので、非常に教育効果は大きいと思います。

次に２点目ですが、各小・中学校に司書教諭を配置していただいており、これも素晴らしいことだと思っています。しかし、現在、１校あたり週２回で５、６時間の配置ということで、学校図書館が常時開放できない状態になっています。子どもたちにとって、学校内で本に触れる本当に大切な場ですので、司書教諭の配置時間のさらなる増加によって、子どもたちが本と触れ合える機会を増やしていただければと考えています。

最後に、３点目として、学校における食育と栄養教諭の配置についてです。現在、３小学校に栄養教諭の先生を配置していただいており、食育と学校給食の管理を中心に、子どもたちが健やかに成長し、生涯健康な体で過ごせるよう、指導をしていただいています。私の子どもが教えてくれたのですが、先日、給食のときに栄養教諭の方が教室に来られて、食品ロスについて、クイズ形式で楽しくわかりやすく教えてくださったそうです。子どもたちが生きていく上で食に関することは命の問題につながる大切な事だと思いますし、このような指導ができるのは栄養教諭しかいないと思います。本町には小学校が５校ありますので、各校１

人ずつ配置していただければありがたいと考えています。人員を追加配置することは、予算的にはなかなか難しいことと思いますが、子どもの成長に直接つながる部分であると思います。子どもたちが健やかに学校生活を送ることができるよう、少しでもご配慮いただければ幸いです。

○松下教育委員

私も８小・中学校を訪問させていただいて、大きく４点のことについてお話をしたいと思います。

まず、１点目、子どもたちの様子ですが、全体的に大変落ちついており、良い学校生活を送っていると感じました。ただし、一人ひとりの子どもを見ていきますと、少し課題のある発言や行動等ありますので、各学校には一層の生徒指導の充実が望まれると考えます。昔は、生徒指導は一本のように思われていたのですが、昨今の生徒指導は、３つがうまくリンクした指導がされています。１つは生徒指導全体に関することと道徳の時間です。今年から小学校で道徳が教科化され、中学校では来年から実施となりますが、教科としての道徳の中で培う力、これを自らの生きる力に変えていくということが１点。２つ目は、特別活動です。子どもたちが、お互いに自分を出しながら、切磋琢磨していきながら、議論をしながら、社会のミニチュア版を体験するということが特別活動の中で実現されるべきです。３つ目は、特別支援になります。以前は、日本全体では６％の子どもが何らかの形で発達に障害があると言われてきましたが、現在、ある都道府県ではそれが１０％近くとなっているとの報告がありました。それが学力や生徒指導など、様々なところに現れてきています。大学の教授の話では、１００％の完璧な脳の人はいないとのことですので、当然のこととして捉えれば良いのですが、一方で、そういう視点で子どもたちを見ていくということが必要であると思いました。

次に２点目です。全小・中学校のほとんどの学級でＵＤ（ユニバーサルデザイン）化が進んでおり、素晴らしいことだと思いました。子どもたちが前を向いている状態で、以前であれば前に多くの掲示物等がありましたが、それがほとんどなく、後ろに掲示してあり、前を向いたときに先生や黒板に集中できる環境があり、これは良い成果につながっていると感じました。

次に３点目は給食です。学校訪問の際に給食をいただきましたが、これが非常に美味しかった。給食は子どもの頃、また、教師としてもたくさん食べてきましたが、こんなにおいしい給食は初めてでした。精華町の子どもたちは非常に幸せ

だと思いました。しかし、これが日常になれば幸せは感じなくなってしまうので、何らかの形でその幸せ実感できるような機会を作っていただければと思います。

次に４点目として、私がメインでお伝えしたい学力の向上と充実についてです。２つありまして、１つは、電子黒板の整備についてです。今、ニュースなどを見ていると、プレゼンなどは多くの場面で電子黒板を使いながらやっています。私も見たり使ったりするまでは興味がありませんでしたが、一度見る機会があり、これはすごい力を持っていると感じました。例えば、先生がプリントを配って授業を進めるとき、子どもたちは下を向いて作業をします。下を向いていると、本当に勉強しているのか分からないところがありますが、電子黒板を使って、指さして、ここを見なさいと言うと、全部の子どもたちがそっちを見ます。つまり顔を上げます。顔を上げるということは、意識がそこへ向かっているということであり、教員がそれを理解・確認できるのです。１０年前に静岡へ行ったときの中学校の授業で初めて見たのですが、たった１枚のグラフから１時間の授業が展開され、子どもたちが次から次へと意見を出し、議論をしていました。それを見たときに、本当に目からうろこが落ちました。それ以降、興味が湧いて視察に行ったり、研究したりしていました。文部科学省の平成２９年度の調査において、全国の普通教室の電子黒板の整備率は２６．８％と低く、３割にも満たない現状です。まだまだ普及はしていませんが、実施に使用している学校に質問すると、例えば、子どもたちが積極的に授業や学習活動に参加するようになったかという質問に対して、先進地域は９０％以上が、一般地域においても８０％が前向きに授業を展開できるようになったとの調査結果が出ています。町財政の厳しい折、次の課題として、まずは中学校給食に取り組むという目標がありますので、来年度ということではなく、今後のこととしてご理解いただければと思います。ただ、精華町は学研都市ですので、様々な先端企業、大手企業が立地しています。中には教育財団を持つ企業もありますので、そのような企業と連携することも一つの方法であると思います。導入だけでなく、それを使いこなすことにも時間がかかると思いますので、できるだけ早期の整備をお願いいたします。ＩＣＴやＩｏＴ、ＡＩについては、日々進歩し、新聞やニュースに出ない日はありません。また、小学校では、再来年から新学習指導要領が始まり、プログラミング教育が新たに実施されます。教育長のお話では、精華町として来年度からプログラミング教育に積極的に取り組みたいとのことであり、この点につきましても、お願いしたいと思います。

最後に、授業改善についてです。本当に楽しい授業がたくさんありましたし、良い授業も見せていただきました。アクティブラーニングの視点が注目されており、主体的、対話的、深い学びというこの３つの視点になりますが、対話的という言葉に縛られていて、人と人の会話だけに終わってしまっている状態が散見されます。対話というのは、友だちとの対話はもちろん、先生との対話、本との対話、それから偉人から学ぶなど、様々な対話が考えられます。それをその教材に合わせて指導していくということが必要だと思いますので、精華町の小・中学校においては、今後、アクティブラーニングの視点に応じた授業改善の伸び代があると考えています。来年から文科省の全国学力テストも内容が変わり、新たな時代に入ってきます。また、小学校では、英語を担任の先生が指導するという、すごい時代になってきました。教育委員会の委員としてはもちろん研鑽を積んでいきたいと思いますが、精華町としても様々な視点から施策や支援をしていただければありがたいと思います。

○川村教育長

予算に関連しまして教育委員の皆さんからお話をいただきまして、部活動指導員や支援員、介助員など人員配置の充実、それから楽器の整備、電子黒板などのご意見をいただきました。その中で、精華町の教育がどの方向に向かっているのかということを持った上で予算を確保しなければ、大局を見誤り無駄遣いになってしまうと考えています。新学習指導要領や中教審の答申など参考にするものは多々ありますが、最近、注目したものがありますので少し紹介させていただきます。今年の６月に経済産業省から未来の教室ということで、エデュケーションとテクノロジーを合わせたＥｄＴｅｃｈ研究会というものがあり、第１次報告がありました。また、文部科学省においても未来の教育がどうあるべきかを論じたものとして、ソサエティ５．０に向けた人材育成に係る省内タスクフォース議論の取りまとめというものがあります。そもそもソサエティ５．０というのは、狩猟社会をソサエティ１．０とし、農耕社会、工業社会、情報社会、その次の５番目の新たな社会として、超スマート社会になっていくというものです。この社会では、ＡＩやＩｏＴ、あるいはビッグデータやロボットを扱っていく前提であるが、現在の日本では、ＡＩやその基礎となる数学、情報科学等に関する研究開発と教育が、米国や中国にかなり遅れていることを基本認識として持つ必要があり、また、情報科学系の人材が不足しているという状況もあります。情報科学系の人材

を育てていかなければならないが、それだけではなく、共通して求められる力として文章や情報を読み解く力、対話する力、科学的に思考したり吟味したり活用したりする力も必要であり、さらには、価値を見つけ出す感性や好奇心、探求心についても求めたいということが提言されています。また、コンピューターやＩＣＴを理解して使いこなすための知識についても求められています。そのような社会の中で、学校もこれまでのような教職員だけが運営する一元モデルから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員などを入れたチームとしての学校で運営していくことになります。また、教員だけで指導するのではなく、様々な団体や民間事業者、地域の方々にも指導に当たってもらう。画一的な教育ではなく、個々の人、特性に応じた教育をする。紙での教育だけではなく、ＩＣＴを活用する。これらは、先ほど教育委員の皆さんからお話がありました支援員や介助員、部活動外部指導者など人の部分、またＩＣＴ機器の部分ともつながってきますが、現在、国の議論の最先端のところでは、そのような未来社会に向けて、学校や教育も同じ方向を見て動いていっているということが確認できます。

以上を踏まえまして、私が思うところは、ＩＣＴに関する基本的な設備が整っていない状況では、標準的な学校教育の実施が困難になる時代に突入しつつあるということです。まず前提として、インターネット環境が整備されていること、それから、タブレットなどの端末が多数整備されていることです。現に精華町の学校は、全学校に数十台のタブレット、又はデスクトップのコンピューターが整備されています。先ほど電子黒板の話がありましたが、タブレットと電子黒板をセットで使用できれば、非常に有効なツールとなりますので、松下委員と共通の考えを持っております。

ただし、教員が使いこなせることが前提ですので、無駄のない整備方針を考えていく必要があります。ゆっくりしていてはいけませんが、慌てても良い結果は生まれませんので、未来の学校というものを展望しながら、計画的に取り組むことが大切だと考えています。また、学研都市精華町ですから、近隣に遅れることなく、先進的に取り組むことができればと考えています。

○木村町長

本日は、支援学校や支援学級の子どもさんを対象に、ＮＰＯ法人そらの方々が、午前中は料理教室、午後は体を動かすスポーツ的な活動に取り組まれ、私も参加

させていただきました。関係者の方に聞きますと、このような取り組みが実施されている市町村は少ないということであり、本町としては非常にありがたいことだと思っております。ＮＰＯ法人そらにおかれましては、子どもを見守り、子育てにも関わっていただくという活動を継続していただいており、精華町の教育環境は非常に恵まれていると感じたところであり、少し報告させていただきます。

現在の教育現場においては、先生方に大変ご苦労いただいていると承知しておりますが、教育委員の皆さまから、若手教員の人材育成の取り組みとして、ベテラン教員と新任教員が人としての関わりや交流の中で、授業としての指導力だけでなく、人間性の部分でも指導力を上げているのだと思いますし、その積み重ねが本町の子どもたちの成長にもつながっていると思っています。

もう５年ほど前のことになると思いますが、姉妹都市提携を結んでおりますアメリカのノーマン市から、来町いただいた大学の先生と中学生が交流する機会があり、中学生がそこで堂々と会話を交わしている姿が今でも心に残っています。それを見ても。非常に高い教育が行われていると感じることができました。それだけではなく、私は町長として入学式や卒業式、各式典に出席しておりますが、そのような場においても、中学生が堂々と言葉を交わして挨拶するという場面を目にしており、これは日々の学習の積み重ねによるものだと感じております。

先日、けいはんな文化祭が開催され、本町からも各学校が参加され、様々な発表をされていました。発表の際には、自己紹介などをしますが、本町の生徒さんは紙を見ることもなく、堂々とはっきりと言葉を発しておられ、非常に感心させられたところです。先生方の日々の指導の積み重ねに、感謝申し上げたいと思います。

先ほど挨拶で紹介させていただきました環境日記の取組みを見ましても、環境問題に真剣に向き合って、現在の環境問題に対する厳しい指摘を子どもの目線でしており、大人が子どもに教えられていると感じました。これだけではなく、各学校で特色のある学校づくりをしていただいておりますし、精北小学校の大正琴の取組みも、国民文化祭を機会として始まり、現在まで継続していただいていることは非常に嬉しいことです。今後も各学校の特色を生かして取り組んでいただきたいと思います。

また、町立図書館におきましては、先人の取り組みに感謝をしたいと思っております。私も当時、議会議員の立場で関わらせていただきましたが、当時の館長さんがどのような図書館を造るかということで、全国の図書館回りをされ、その

結果として、現在の図書館があります。それが今、本町の図書館の高い評価につながっていると考えており、近隣のまちから７万冊以上を借りに来ているということがそのことを現しております。しかし、それに満足しているのではなく、本当にそれが良いことなのかという図書館のあり方についても、少し考えるところがあります。

先ほどご意見として、ＩＣＴ関係や電子黒板のお話もありました。当然、これからの課題として認識はしておりますが、ご提案いただいたように学研都市の企業にも協力をお願いすることも一つの方法であるのかなとも思いました。

学校給食の関係につきましては、現在、準備を進めているところではありますが、かなりの事業費を要することもございまして、給食センターとしてだけではなく、災害など有事の際にも活用できる機能も併設することを視野に、整備を進めていきたいと考えております。

それから、最後に、教育というのは、学校の現場だけで行われるものではないと、機会あるごとに保護者や地域の方にお伝えしており、学校、家庭、地域社会がいかに連携を持つかということが大切です。報道などを見ますと、時には学校に対する不満で、先生方が大変ご苦労されていることがあります。そうではなく、学校の現場を周辺の地域の人たち、あるいは保護者の人たちがどのように支えるかということが非常に大事だと思っています。例えば、精華中学校では、コミュニティースクールとしてシニア層の人たちが中心になって頑張ってくれています。学校の現場も非常に落ちついており、収穫祭では多くの地域の方が参加され、１，１００食のカレーを完食したとお聞きし、これはすばらしいとだと考えております。これからもあらゆる機会を捉えて、地域社会、そして、学校の現場、家庭がしっかりと連携、協力できるよう、さらなる発展のために行政としても努力をしたいと思っておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

（４）閉会

総務部長が第２回総合教育会議の閉会を宣言。